

普通科デジタル探究コースの今年度の取り組み

(1) 日 時：5月20日(金) 6校時

テーマ：羽後学①「羽後学ってなーに？(ZOOMの活用)」

講 師：慶應義塾大学SFC 長谷部葉子研究会 学生5名(オンライン)

内 容：グーグルクロムや電子黒板を用いて、ZOOMでの接続のしかたと、
オンラインで今年度の「羽後学」の活動内容についての講話。

(2) 日 時：6月14日(火) 5・6校時

テーマ：「建設業の仕事とドローンの活用について」

講 師：(株)小野建設 小野 人平さん、
ほか従業員1名

内 容：講話…建設業界におけるデジタル化の
進展についての講話。

体験…校庭にてドローンの操作体験
(すべての生徒が操縦体験をする)



(3) 日 時：6月17日(金) 5・6校時

テーマ：羽後学②「社会を知り、深めよう！」

講 師：慶應義塾大学SFC

准教授 長谷部葉子先生、学生4名、

ゲスト：三菱U S J銀行 白土昌健さん

(来校・SFCのOB)

東北芸術工科大学デザイン工学部

准教授 松田龍太郎さん(オンライン)

(株)Ay代表取締役 村上 采さん
(オンライン)



内 容：ゲストの皆さんの体験談(社会にはどのような課題があるのか、その課題をなぜ発見したのか、その課題に対してどのようにアクションを起こし、今どうなっているのか、これからどのようにしていきたいか)より社会の現状等を知る。

(4) 日 時：7月8日(金) 6校時

テーマ：羽後学③「ライフラインシート(人生グラフ)から」

講師：慶應義塾大学SFC 学生1名(来校)、学生4名(オンライン)

内容：グループに分かれて、生徒各自の過去と未来のライフラインをもとに、大学生とカウンセリングしながら、今後の方向性を探る。

(5) 日 時：7月21日(木) 5・6校時

テーマ：「実際の建設現場でのドローンの活用の見学」

講師：(株)小野建設 小野 人平さん、他数名

内容：羽後町にある解体作業中のゴミ処理場にて、ドローンの活用風景を見学。



(6) 日 時：9月9日(金) 5・6校時

テーマ：羽後学④

「インタビューにより質問力や表現力、要点をつかむメモ力をつける」

講師：慶應義塾大学SFC 学生3名(来校)

内容：ウェブアプリのk a h o o tによるクイズに答える。大学生の自己紹介に対して質問をしたり、メモを取ったりする。生徒同士でインタビューをし合い、自己表現力や質問力、要点をまとめる能力を身につける。

(7) 日 時：10月14日(金)午後

15日(土)午前

テーマ：「eスポーツの現状と実践」

講師：デジナーレ情報学研究所

佐々木 訓さん 他4名

内容：「e s p o r t sはスポーツか」、
「参加(観戦)するe s p o r t s」、
「仕事するe s p o r t s」の講義を聴いたり、本校の文化祭にてe s p o r t s大会を企画・運営し、機材の設置準備から各ゲームや機器の操作の説明などを行った。



(8) 日 時：10月18日(火) 5・6校時

テーマ：「インターネットの世界について」

講師：デジナーレ情報学研究所

高橋 一俊さん 他1名

内容：「ITパスポートエッセンシャル」、
「すべての社会人が備えておくべきITに関する基礎知識」、「インターネットの世界」、「情報モラル(情報倫理)について」の講話を聴いた後、インターネット配信を実際に体験した。

(9) 日 時：10月28日(金) 5・6校時

テーマ：羽後学⑤「チームで楽しむ力をつける」

講師：慶應義塾大学SFC 学生3名(来校) 学生4名(オンライン)

内容：アイスブレイクとして、指示に従ってジェスチャーをするゲームや、チームに分かれてお題にあったポーズを決めるゲームを行った。次に「住みたい町」についての問題をカフトで作成。11月に行われるSFC研修のテーマについて考えた。



(10) 日 時：11月1日(火) 5・6校時

テーマ：「WEBサイトの構成とデザイン」

講師：デジナーレ情報学研究所

飛塚 嗣公さん 他1名

内容：「WEBサイトの役割」、「WEBサイトを見てもらうためには」、「制作するWEBサイトの目的とコンセプトを考えよう」の講話を聞いた後、ユーザー登録してWEBサイトを作成したり、WEBサイトを公開するための手続きを学習した。

(11) 日 時：11月4日(金) 6校時

テーマ：羽後学⑥

「チームで楽しむ力をつける 2」

講師：慶應義塾大学SFC 学生2名(来校)
学生4名(オンライン)

内容：体育館にて、チームに分かれ「指示に従えアトラクションゲーム」や「シャッターチャンス」というインプロゲームを行った。



(12) 日 時：11月 9日(水)1～4校時、

10日(木)3～6校時、

11日(金)1～3校時

テーマ：SFC研修

「羽後町劇場 ～発見！私たちの町～」

講師：慶應義塾大学SFC

准教授 長谷部葉子先生

学生7名(来校)、他オンライン参加

内容：9日(初日)は、「羽後町(地域)を知る」ということで、「良い町とはどんな町のことなのか」をテーマに、事前にアポイントメントをとってある町内の方々の所に向いて直接インタビューをさせていただき、まとめたものを共有し合った。





10日(2日目)は、「町について考える、自分について考える」をテーマに、前日の内容を踏まえて自分が考える「良い町」を考えたり、グループ内で各自の考えを共有したりしながら、みんなにとって良い町に必要な要素を考えた。

11日(最終日)は、グループのみんな考えた「良い町」についてを、グループごとに寸劇にして発表した。発表会には初日にインタビューした町内の方々も招いて、発表会後にそれぞれに感想等もいただいた。

(13) 日時：11月18日(金) 5・6校時

テーマ：羽後学⑦

「SFC研修の振り返りをし、将来の暮らし方と働き方について考える」

講師：慶應義塾大学SFC 学生2名(来校)、学生5名(オンライン)

内容：SFC研修時に頑張ったこと、挑戦できたこと等を共有し合う。また、将来の羽後町について考えながら、自分は将来どこで、何をして生きていきたいか等を考え発表した。

(14) 日時：12月13日(火)

5・6校時

テーマ：「メタバース」

講師：デジナーレ情報学研究所

高橋 一俊さん 他1名

内容：「メタバースとは何か」、「メタバースは今がタイミング」、「国家戦略としてのメタバース」、「コンテンツ大国日本の強み」の講話を聴き、実際に仮想空間のアカウントをとり、アバターを操作するなどの体験をした。



(15) 日時：12月16日(金) 6校時

テーマ：羽後学⑧

「羽後学で挑戦してみたいこと、明日からやってみたいことを考えよう」

講師：慶應義塾大学SFC

学生4名(来校)、他5名(オンライン)

内容：これまでの活動のもと、自分が抱く夢や理想の実現に向けて、何を必要があるのか、何をしたいか、そして近い将来である2年生羽後学において、何に挑戦してみたいか、明日からやってみたいことは何か、を大学生と



の対話を通して考えた。

(16) 日 時：12月22日(木)
・23日(金)

テーマ：「プログラミング講座」

講師：株式会社テクノス秋田
浅石 宏明さん

内容：「Google Colaboratory」
ソフトにより、Python言語を使用した初心者向けのプログラミングの演習。

基礎編では、「プログラミング言語とは」、「条件分岐とは」、「変数とは」、「乱数とは」、「繰り返し処理とは」などを学習し、それぞれにプログラムを作成した。応用編では、「ガロンボトル」のクイズにチャレンジしたのち、実際に「ガロンボトル」のプログラムを作成、実行と検証を行った。



(17) 日 時：1月20日(金) 6校時

テーマ：羽後学⑨「最終発表に向けて、準備をしよう」

講師：慶應義塾大学SFC 学生1名(来校)、学生6名(オンライン)

内容：2月17日に行われる発表会に向けて、これまでの活動についてGoogle スライドで次の①～④の内容をまとめた。また、他の表現方法(演劇・動画・音楽など)も考えた。①これまでの羽後学・SFC研修の学びについて
②自分はどこで、何をしたいか
③そのために2年次の羽後学でどんなことに挑戦していきたいか
④自分の強み・長所

(18) 日 時：1月23日(月) 5・6校時

テーマ：「デジタル社会を生きるために」

講師：ジャーナリスト 池上 彰さん
(オンライン)

内容：現在の日本のデジタル化の状況、デジタル化の良い点や課題、今後のデジタル社会の予測、これからの私たちに必要な能力、などを我々の身近にある実際の例をもとにしたお話を伺った。



(19) 日 時：2月3日(金) 6校時

テーマ：羽後学⑩「最終発表に向けて、準備をしようⅡ」

講師：慶應義塾大学SFC 学生3名(来校) 学生4名(オンライン)

内容：発表会に向けて、各生徒の発表方法と発表の流れを決定し、内容について大

学生と相談しながら完成に近づけた。なお、①の羽後学・SFC研修についてはスライドで発表し、②③④についてはどのような表現方法でも良いこととした。

スライドのみで発表が13名、楽器演奏を含めての発表が4名、カフトによる発表が4名、動画による発表が3名、俳句を含めての発表が1名となった。

(20) 日 時：2月17日(金) 5・6校時

テーマ：「1・2年生による羽後学発表会」

講師：慶應義塾大学SFC 准教授 長谷部葉子先生、学生6名(来校)、
学生数名(オンライン)

内容：5校時は1年生の発表、A班・B班の2つに分かれて、1人3分程度で発表した。聞き手は発表の都度、ジャムボードに良かった点や課題・改善点などの付箋を貼った。最後に大学生より講評等をいただいた。

6校時は2年生の4つのグループによる発表を聴いた。各グループの発表内容は、①羽後町の観光スポットについて、②羽後町の福祉や福祉施設について、③羽後町のPR活動について、④羽後町の歴史についてであった。生徒らは今年度の羽後学の学習内容を、来年度どのように深めたらよいか等、参考になったようだ。

4 今年度の活動を振り返って

本校では、急速に進んでいるデジタル社会の中でソフト面・ハード面問わず、臆することなくデジタルに関わるさまざまな知識や技術等を身につけることができるように、また、ちょっとした興味関心をもとに、小さな成功体験を積み重ねながらデジタル系に強い人材を育みたいと考え、各講座を計画し実施してきた。

「デジタル探究」は、羽後学を通して慶應義塾大学SFCの長谷部先生をはじめとして大学生の皆さんにご協力をいただきながら活動してきた。生徒らは最初の講座で、オンラインの講座に欠かせないZOOMソフトの使い方について指導していただいた。その後の講座でも常に大学生とオンラインでやりとりをしながら、少しずつ活動を深めた。2月に行われた発表会では、さまざまソフトを巧みに使い、発表や相互評価ができるようになった。

「デジタル情報」では、地元の企業等の協力のもと、生徒らの好奇心・興味関心を示しそうな「ドローン」、「インターネット」、「動画配信」、「メタバース」などをテーマに講義と体験実習を組み合わせ実施した。また冬期休業中に実施した「プログラミング」の講座でも、生徒らがスムーズに取り組めるように基礎的な内容から応用的な内容へと講義・演習を実施した。

デジタル探究の初年度、日々講座内容について講師をしてくださる慶應義塾大学SFCの学生や地元企業の方々と話し合いを持ちながら活動を進めてきた。生徒らは、どの講座の講義や体験・実習に対しても常に新鮮な気持ちで臨み、大なり小なり刺激を受け、将来に向けて前向きな感想を述べてくれた。企画運営する側の我々がゆとりをもって1年間を

見通した企画・計画ができず、生徒にとって物足りない部分が多々あったように感じた。また、今年度購入したデジタル機器・教材を活用した講座を開催することができず残念であった。来年度以降は、このような反省・課題を踏まえてより具体的で活発な充実した活動ができるよう励みたい。

2023. 6. 20 秋田さきがけ新聞 掲載記事より

地域

2022年(令和4年)6月20日 月曜日

秋田

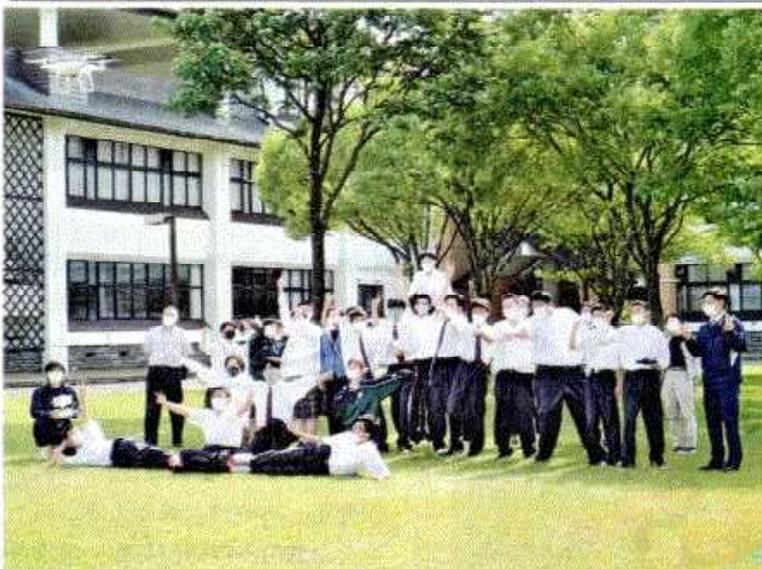
ドローン操作「難しい」

1年生 羽後高 業者から活用法学ぶ



ドローンを操作する生徒

羽後町の羽後高校(平川研校長)の1年生24人が、授業で小型無人機ドローンの操作方法などを学んだ。デジタル人材の育成を目指す「デジタルビジネス探究コース」が本年度設置されたことに伴い、2年次のコース選択を前にした体験学習として企画した。14日に同校で実施。小野建設(同町新町)の小野人平副社長(40)と同社土木事業部の宇戸睦課長(38)が講師を務め、仕事内容や建設業でのドローンの活用方法を紹介。「ドローンの空撮などで現場の地形などを3次元で把握でき、平面図より施工後をイメージしやすいのが利点」など説明した。



ドローンで記念撮影もした

を体験。高さを保って真つすぐ飛ばしたり、着陸させたりするのには苦戦しながら、5メートルほどの距離を移動させた。最後はドローンのカメラを使い、全員で記念撮影をした。初めてドローンを操作したという阿部香琳さんは「難しかったが、良い経験になった。ドローンへの関心も高まった」と話した。羽後高では本年度の1年生から、2年次にデジタルビジネス探究コースか「生活文化コース」のどちらかを選択する。1年生向けに外部講師を招いてデジタルビジネス探究コースの内容に関する講演や体験学習を数回行う予定で、今回が1回目。(漢文香)